

活動名 馬洗川環境美化活動	団体名	NPO 法人みよし子育て・学び支援あすなる
	地域	広島県三次市
	代表者	理事長 黒田 明憲
	支援金額	20 万円
活動概要		
<p>馬洗川環境美化活動とイベント「アドベンチャー馬洗川」</p> <p>①河川敷美化活動（会場島敷町馬洗川河川敷・十日市親水公園） あすなる塾生・保護者とボランティアスタッフで年間3回実施。</p> <p>②水中石磨き活動(会場島敷町馬洗川河川敷・十日市親水公園) 原則、河川敷美化活動とあわせて実施。美化活動のあと約1時間川の中の石を磨き、アユの食む新鮮な珪藻の育成環境を整備。年間2回実施。</p> <p>③環境学習・体験活動(会場三次市島敷町馬洗川河川敷) 水生生物調査・外来植物調査。伐採した川柳を利用してキノコ栽培の原木として利用しヒラタケ・ナメコの菌打ち体験活動等を実施。年間1回実施。</p> <p>④川イベント「アドベンチャー馬洗川」(三次市十日市親水公園) 江の川漁業協同組合・三次市観光協会鶴匠会・三次市十日市親水公園愛好会等と連携して実施。年間1回実施。</p> <p>◆実施時期 ・環境美化活動 2014年6・7月。川イベント7月。環境体験学習9月～12月。 ・馬洗川十日市親水公園・馬洗川八次親水公園建設予定地の周辺を会場に実施。</p> <p>◆参加人数 ①河川敷清掃・水中石磨き活動への参加人員 ・あすなる生・保護者・指導者・ボランティア 計120名 ②7月 イベント「アドベンチャー馬洗川」 ・市民・小学生・幼児 約360名。ボランティア等 計400名 ③環境学習体験活動 小中学生・市民・ボランティア 計27名 参加総人員:547名</p>		



水中みがき隊 磨く手つきもいいよ！



いかだ遊び隊 総勢71名 いざ出発！



塩焼き隊 自分で握ったアユのおいしさ！ 幸せです！



水鉄砲隊 手づくりの鉄砲で水かけ合戦。7メートル飛びました！

◆実施に伴う効果

- ①当法人が呼びかけ実施した川の環境美化活動は、漁業関係団体と市民を結びきっかけとなり、市民参加の夏の川イベントとして定着してきた。
- ②河川環境学習・体験活動は地元の八次小学校 4 年生先生と連携し郷土学習として位置づけていただいで実施している。学校からも感謝されている。

◆苦勞した点

- ①予算面の苦勞
イベント「アドベンチャー馬洗川」を十日市親水公園で実施するにあたり、市民参加を得るために親水公園利用団体との共催で実施した。当初予算を大幅に上回ったので、個人商店から広告費を集め、また地場企業からボランティアの方を応援をお願いした。
- ②外部へのPR・地域理解
ポスター・チラシ・新聞報道によったが、最大の効果をあげたのは、会場近くの「常会」(町内会)の協力であった。地域連携の大切さを学んだ。
- ③参加者の反応
「新聞で知った」と広島・福山方面から来られた家族がかなりおられた。一番人気は「いかだ下り」。危険を伴う種目だけに安全対策の万全を期すことが課題となり、下る距離を大幅に縮小したので、多くの子どもが楽しむ事はできたが、「アドベンチャー(冒険)」という面では高学年の子どもが物足らなさを感じていた。来年度は十分な配慮のうえに冒険性を高めたい。
- ④行政・団体との計画的連携
計画段階から「常会」と一緒に取り組むことができなかつたが、地域への定着を進めるためには、地元中心の実行委員会をつくって実施したい。

◆今後の課題・発展の方向性

- ①イベント「アドベンチャー馬洗川」
市民から好評を得たので、次年度から国土交通省三次河川国道事務所・江の川漁業協同組合・三次鶉飼伝統文化振興会等と行政・市民団体と連携して実行委員会を結成し、「川のまち三次」の行事として継続していきたい。
- ②八次親水公園の建設
これまで当法人が活動してきた馬洗川河川敷が「八次親水公園」として整備され、2015 年度オープンとなったので、「川の賑わい」「環境学習」「自然観察」の場として活用を図っていきたい。
- ③過疎・少子化の中国山地のふるさとを担う若者の育成
「経済的に恵まれない子どもたちの学力支援」を直接の目的としてスタートした。あすなるの中学生たちの多くは大都市志向でなく、高校大学・専門学校に進学して地域で安定した職業(看護師・JA職員・保育士・美容師・地方公務員・地場企業等)につきたいと考えている。少子・高齢化のすすむ過疎地にとっては、「かけがえのない子どもたち」である。地域に定着し就職・起業することで地域創生の展望は広がる。子どもたちがふるさとに生きる夢を抱いて育つことを願っている。

◆活動を終えての感想・意見等

2 度目の助成をいただき感謝でいっぱいです。現在は「貧困による負の連鎖を断ち切る」ことを目的とした広島県北の取り組みは当法人だけですが、ある程度の実績と社会的な評価をいただくようになったと自負しています。今後は県北の各地に取り組みを拡げ、「点」と「点」をつないで「面」にし、地元高校、県立大学等と連携し里山を担う若者育成するネットワーク化を展望しています。

これまでお送りしていた「あすなる通信」は今後も発送しますので読んでください。引き続き夢の実現に向けて頑張りたいと思っています。本当にありがとうございました。